

野老澤の歴史をたのしむ会 いばらきバス旅行

～古河公方館跡と結城紬の里で歴史ロマンに浸る～

記 柴崎善博

◆実施日：2025年11月21日（金） ◆参加者：26名

◆行先：古河公方館跡、つむぎの館、結城歴史公園、称名寺、弘経寺、結城旧市街、結城蔵美館

◆担当：小川、茂出木、梅津、小倉、曾部、戸田、柴崎、

●行程：小手指駅南口(7:30 出発)→入間 I C→菖蒲 P A(休憩) →古河公方館跡→結城つむぎセンター(昼食) →つむぎの館（結城つむぎ見学）→結城歴史公園（見学）→称名寺（見学）・弘経寺（見学）・結城旧市街（探訪）→結城蔵美館（見学）→菖蒲 P A(休憩)→小手指駅南口
 (18:30)

当日は雲一つない晴天で、予定通り 7:30 に小手指駅南口を出発した。圏央道、菖蒲 P A で休憩し、古河公方館跡に到着する頃には気温も上がり絶好の行楽日和となった。気持ちの良い散策ができた。その後結城歴史公園、称名寺、弘経寺見学、結城旧市街探訪、つむぎ館、結城蔵美館見学等豊富な内容で予定より 10 分遅れて帰途に着いた。途中、渋滞に会

い約 30 分程度遅れて小手指駅 18:30 到着した。

1. 古河公方館跡 (9:20~10:30)

二班に分かれボランティアガイドさんより、案内説明を受けた。古河公方公園内 (25 万平方m) の広大な敷地内に民家園（旧飛田家・旧中山家）があり特に旧飛田家の曲がり屋の廻は興味深く見学できた。森の中、古河公方館跡（石碑）からの眺めは沼に囲まれ堅固な要塞が想像された。公園内にはせせらぎが設けてありなんとも落ち着いた居心地の良さを感じられた。園内は非常に整備が行き届いており古河市の積極的取り組み姿勢を感じられた



左奥の林に古河公方館跡がある

写真に見られるように古河公方館跡のある公方様の森の当時の城館は沼に突き出た半島に連郭状の構えで造られていた。その森の小径を通り御所沼にかかる天神橋を渡ると広場が広がり、この館と舟で行き来した本城の古河城の方向や御所沼を浚渫した際に出た泥土を積み上げた小山の解説があった。中世には渡良瀬遊水地と一体となった湿地帯であったとのことではすや花しょうぶのある湿地には渡り鳥が飛

来していた。公園北には「徳源院跡」の遺跡があり、最後の5代目古河公方足利義氏とその孫喜連川義親の墓を見る。古河公方は絶えるが子孫は喜連川藩として江戸から幕末まで存続したことの説明を受けてから公園をあとにした。

2. 結城つむぎセンター（昼食）(11:25～12:10)

皆さんは事前に注文しておいたお重で食事。2階の会場での昼食となった。メニューは天ぷら、焼き鮭、季節の野菜、季節の煮物、ご飯、香の物で、ビールを楽しむ人もいて楽しく歓談しながら大満足の昼食であった。

3. つむぎの館（12:20～12:50）

施設内には手織り（資料館）、染織工房織場館、結の見世で結城紬について知ることが出来、ショッピングもあり、たのしめた。但し古民家陳列館は休館で見ることが出来なかったのは残念だった。



つむぎの館（ガイドから概要説明）

4. 結城歴史公園（13:00～13:30）

ここも二名のボランティアガイドさんに案内と解説をしていただいた。結城城は三度の築城と焼失・解体・焼失があったとされている。一度目は結城氏が築城し、結城合戦（嘉吉元年・1441年）で焼失落城。二度目は結城合戦後結城氏が再興され築城し、結城秀康が福井へ転封後に解体された城。三度目は結城水野氏築城（1703年以降）から「戊辰戦争（慶応4年・1868年）で焼失した城。また江戸時代の結城城推定縄張図を参考に現地外堀・内堀跡の確認本丸、二の丸、三の丸と歩いてみると強固な城であったと思わせるあとがあり、想像力を含ませてくれる。又城跡が高台にあり遠く筑波山の頂をみることもできた。ガイドさんの埋蔵金の話は特に興味深かった。



結城歴史公園内にある与謝蕪村の句碑

結城歴史公園から旧市街に戻り、称名寺裏門付近でバスを降りた。以後は歩いて、称名寺・弘経寺（くぎょうじ）見学・旧市街を探訪し、つむぎの館前を通り最後の結城蔵美館内をガイド案内していただいた。

5. 称名寺（13：40～14：00）

結城初代朝光が建立、浄土真宗本願寺派の寺院。境内に朝光の墓がありいかにも武士らしい素朴なつくりであった。当日境内剪定の関連で正面脇からお参りした。しばらく歩くとかなり古い京都の二条家から譲り受けた山門もあり当時の繁栄の様子が忍ばれた。



称名寺の山門（京都の二条家から譲渡）

6. 弘経寺（14：10～14：25）

結城家 18 代秀康が娘・松姫の早世に遭い、建立。非常に荘厳な山門をくぐり境内に入ると、さらに装飾性の高い本殿が正面にあらわれて、重厚で荘厳な雰囲気を醸し出していました。さすが浄土宗 18 塇林に数えられることはある。又、与謝蕪村が本寺に長く滞在し、一連の襖絵をのこしていること、初めて知った。



弘経寺本殿前にて

7. 結城旧市街探訪（14：30～14：45）

見世蔵が旧市街にかなり点在しており、国の有形文化財指定されており、古い町並みが随所に見られて圧巻だった。又、ガイドさんの説明を聞きながら歩いていると道が突然クランクしており敵に容易に攻められないような街わりをしているとの説明も興味深く感じられた。

8. つむぎの館・結城蔵美館(14：45～15：10)

今回、古民家陳列館は残念ながら休館。手緒里で糸つむぎ、絣くくり、地機織の展示を、染織工房織場館で職人さんの手作業映像を見る。最後に「結の見世」で素晴らしい結城紬のオリジナルショールや香り袋、ネクタイ等展示販売していた。欲しいけどお値段も良くなかなか手が出せなかつたのが残念であった。結城蔵美館では天下三名槍の一つ「御手杵の槍」を持ち上げるのに大変さを知り、にぎやかな鑑賞タイムであった。

結城蔵美館駐車場を 15：10 に出発し、圏央道の菖蒲 PA で休憩後、帰路についた。途中渋滞に巻き込まれ予定より 30 分遅れの 18:30 に小手指駅南口に到着した。今回のバス旅は澄み切った秋空で行き帰りとも雄大な富士も楽しみながら皆、満足して帰途についた。

以上